

自己評価報告書

平成 23年 5月 17日現在

機関番号：27101

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530323

研究課題名（和文） 戦略的決定の失敗と修正に関する研究

研究課題名（英文） Study on failure and correction in strategic decision

研究代表者

北 真収（KITA MASANOBU）

北九州市立大学・大学院マネジメント研究科・教授

研究者番号：40382410

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：経営学

1. 研究計画の概要

本研究は失敗にスポットを当てており、戦略レベルでの投資判断の失敗を扱う。研究目的等は以下の通りである。

- ① 明らかにしたい点：戦略的意思決定の誤りをリカバリーするプロセス、そのメカニズムの発見、一般化と形式知化
- ② 研究する失敗対象：一旦投資判断に誤りがあっても、すぐにそれに気づき、速やかにその失敗を軌道修正し、実行した事象
- ③ 失敗対象の範囲：戦略レベルでの投資判断の失敗
 - a. 判断の基準となる戦略や企画そのものに問題がある失敗
 - b. 組織文化などの価値観が食い違うことによる判断の誤り
 - c. 誤認知や状況に対する誤判断による失敗

2. 研究の進捗状況

研究計画に基づいて、引き続き、失敗パターンの文献調査、情報収集の分類、整理を進めた。

具体的には、米国などでの事例や資料の収集、取材を行い、データの蓄積に努めた。一方、日本の中小企業から得られた調査データ

をもとに、分析を進め、結果の一部は逐次、論文へまとめる作業を行なっている。

分析では、経営を取り巻く外部環境の状況要因に着目し、たとえば、外部環境の粘着性が強い場合、特に、顧客情報の粘着性が強い場合には、失敗をリカバリーしようとする意識が強く働く傾向があることなどが明らかになっている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している
(理由)

現場レベルからのデータは収集しつつあるが、経営層レベルからのデータは思うように進んでいない部分がある。対象を無作為という訳にもいかない状況や取材への協力状況などクリアすべき課題もある。

4. 今後の研究の推進方策

失敗を修正しリカバリーできた企業や組織について、訪問インタビュー調査を実施する。

経営層へのインタビュー調査は、23年度までに30-40件の企業や組織体を想定している。観測数が40以下になるので定性分析が主体になるが、一定の回答書式に統一集計し、できるだけ統計的解析も行なうことで、数値

データによっても裏付けたい。

本年度は最終年度であるので、最終集計、回帰分析や共分散構造分析などの統計的解析に注力し、これらを通じて一定の結論を導き出す予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 北 真収『粘着情報の解釈とその構造』日本経営学会誌 (掲載決定済み)、第27号、2011年、査読あり
- ② 北 真収『情報粘着性のモデレート効果—学習風土へ及ぼす影響—』北九州市立大学マネジメント論集、第4号、3-18ページ、2011年、査読なし
- ③ 北 真収『シリコンバレー・ベンチャーにみるコンセプト創造』北九州市立大学マネジメント論集、第3号、1-20ページ、2010年、査読なし

[学会発表] (計1件)

- ① 北 真収『情報粘着性のモデレート効果』日本経営学会・九州部会、2011年3月19日、熊本学園大学

[図書] (計1件)

- ① 北 真収 (共著、分担執筆), Springer, “Technological Innovation Across Nations”, 2009年, 13-64ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]